

■韓国：停電検証チームが報告書を発表

政府の停電検証チームは2011年9月26日、15日に発生した大規模停電に関する調査報告書（速報）を発表し、関係当局間の連絡ミスが重なり停電が拡大したとしている。報告書によると、電力供給を調整する電力取引所（KPX）が15日の3時に知識経済部（MOKE）に連絡したが、担当課長が不在であったため、一般職員に知らせただけで、3時11分に計画停電を開始したとのことである。また、大統領府が停電実施の報告を受けたのは停電開始の1時間10分後の4時21分であったとのことである。検証チームは「今回の停電は、電力需給調整を担当するKPXに直接的な責任があるが、電力当局全体が危機に十分に対応しなかった点で、MOKEや韓国電力公社（KEPCO）にも総体的な責任がある。今後、非常時マニュアルの見直しや需給調整のための電気料金引き上げ、電力需要予測プログラムの改善などを図る必要がある」と結論付けている。28日の大手新聞社の報道によると、政府が知識経済部の責任者4名、KPXの役員8名、KEPCOの役員5名を問責し、KPXの運営本部長と中央給電指令所長、KEPCOの副社長の3名が免職、中央給電指令所の関係者3名が懲戒の処分をそれぞれ受けた。